

各地区情勢報告（2019年10月23日）

地区報告者	報告概要
<p>東京地区 (井上常任理事・事務局)</p>	<p>棒鋼部会（鉄筋・店売り）店売り価格は横ばい。10月に入り、秋需の動きになってきたが、昨年より減少している。10月連休明けから荷動きは少し落ちてきている。（鉄筋・直送）価格は弱含みとなっている。ゼネコンの指値が厳しく、スクラップが下落しているため大手ゼネコンは鉄スクラップ電炉買値の動向などに注視し現在様子見状態で小口当用買い中心となっている。秋需に入ってもRC造物件が少なく市況の下げ要因になるのではと懸念している。（平鋼）9月の販売量は前月比、稼働日数分が増加。店売り販売は相変わらず低調。10月に入り、荷動きが落ちている。平鋼メーカーは市況を下げていないのが唯一の救いで、流通もなんとか市況を維持できている。需要は前年より下回っているが、在庫は適正水準を保っている。</p> <p>形鋼部会（一般形鋼）10月に期待していたが例年と比べると若干需要が少ない感じである。1次加工は短納期が多く1～2週間、仕事が埋まっている。大型案件が少ない。土木関係の引合いは増加しているが、指値が厳しい。（H形鋼）9月の販売量は前年同月比、横ばい。8月の出荷が低調であった分、9月に盛り返した。ボルト不足が解消され、中小案件が出てきており回復へ向かっている。H形鋼の在庫は減少しており、一部のサイズで歯抜けも出てきた。但し、需要のピークは昨年だったのではないかと。市況は10月に入り、先安感がある。先々の需要は少なく、指値が厳しくなっている。（コラム）大型物件が少なく、以前受注したものを加工している程度。中小物件は6月以降より徐々に出てきている。値上げしているメーカーもあり、市況は横ばいで推移しています。（軽量C形鋼）9月中旬以降、荷動きが活発になっている。定尺販売は非常に好調。但し、地方の三次店の在庫意欲が低いのが懸念材料。低調な荷動きのなか、メーカーは価格面で強気の姿勢を崩していないため在庫店の売越しは横ばいで推移しています。</p> <p>薄板部会 （薄板概況）8月の薄板三品在庫は456万8千トン。前月比+14万9千トンと増加している。これはメーカー在庫が増加したためである。価格は横ばいにしたが、高炉メーカーが値上げしているため横ばいにせざるをえない。但し、市中価格は弱含みである。9月の販売量は稼働日が多かった分増加している。需要分野としてはインフラ関係、ゲーム機、UFOキャッチャー、空調ダクトは堅調に推移している。スチールサッシ、ドアなどはパイが小さくなっている。台風の影響は今後、運送面で道路の寸断や水没によるトラック不足など影響が出てくるのではないかと。高炉メーカーの日新製鋼が日本製鉄と合併。今まで自由に購入できていたものに少し圧力がかかるのではと懸念している。（表面処理・店売り）9月の販売量は日割りでは前月比少し悪い状況。台風15号の影響で屋根材などに使用さ</p>

れるカラー鉄板の需要が出ているようだ。台風19号の影響は今のところ出ていないが、心配なのはやはり運送面である。ずっと悪い状況が続いており、10月、11月もしんどい。先の物件が見えてこない。

厚板部会

(厚板概況)厚板部会在庫販売調査結果によると9月の実績は前月比販売量9.1%増、在庫量9.3%増と販売、在庫とも増加した。前年同月比では販売量は4.8%減、在庫量は2%増。価格は弱含みである。建産機はメーカーによってまちまちだが、減産傾向に入っている。建築、土木も低調。建築については若干、小口物件が動き出してきた。素材販売、敷板は低調。ひも付き販売は堅調に推移している。店売り販売が相変わらず低調。9月の荷動きは前月比、日割りでは同レベルである。高炉メーカーは強気で値上げを実行している。しかし、流通の販売価格は弱含み傾向。一部で安値玉も散見されている。地方二次店三次店も在庫意欲なく当用買い中心である。来年以降、物件の話は出ているが、今後は建築需要の端境期に入り期待できない。加工についても、稼働日分が増えた程度である。台風19号の影響については、今後、輸送関連に影響が出てくるのではないかと思われる。(中板コイル)9月のレベラー加工量は前月比12%増、前年同月比では1%減。日当たり4%増、前年同月比3%減。8月は稼働日が少ないため9月は全体の量としては増加したが、日当たりではほぼ変わらない状況。9月末在庫は若干増えているが、適正の範囲内と言える。某トラックメーカーの7~9月生産台数は、前年同期比で20%近く減少した。これは輸出向けの減少によるもの。某建機メーカーでも生産量を落とさない方針だったが現状下方修正し減産しているようだ。高炉と電炉とのメーカー間で温度差が価格面で二極化している。(厚板定尺)8月の販売量は、過去20年位の数字を調べたが1番わるかった。厚板の流通在庫は過剰な状況が続いている。メーカーからの入荷も早いため、申し込むタイミングを調整している。定尺品の再販価格は、一段下がっており、採算が合わない状況。荷動きが悪い中、これから復調するのか悪化していくのか先の見通しがつきづらい。ここで荷動きが悪化してしまうと市況が崩れてしまう。(縞板)9月販売量は前月比5%増。日当たりだと6%減という結果となった。メーカーの契約残の消化が早く在庫も7%増加している。二次店、三次店における在庫補充は当用買い中心。店売り販売は低位横ばいである。加工はレーザー中心で小ロット、短納期が多い。7~9月は物流倉庫など新規案件が出件された。10月に入り、プラント、JRの駅の再開発、ホテル、ショッピングモールの物件が出ている。小ロットだが、仕事の山積みは高い。

鋼管部会

(鋼管概況)9月は全体的に悪いような雰囲気、10月に入ってもその悪さを引きずっている。業種の中でも悪いのは建機である。悪いところでは2割位落ち込んでおりパツとしない。自動車、トラックは悪くないが、

	<p>昨年が良かったため見劣れしてしまう。工作機械も悪くなってきた。高炉メーカーの値上げ転嫁が懸念材料である。</p> <p>(高炉品) 9月の販売量は前月比で5%増、前年同月比では横ばいから5%減であった。日割りにすると前月と変わっていない状況。逆に悪くなっている企業もあり、月を追うごとに静けさが増している。建築設備案件は工期遅れによる素材納入があるのみで、新規案件は乏しい。プラントは11月以降、復調の兆しはあるが足元厳しい。高炉メーカーは相変わらず強気で更なる値上げ発表もされている。納期はメッキ品を中心に遅れが解消されていない。店売り販売は日に日に静かになり、秋需の期待は薄い。高炉メーカーの強気な値上げに困惑しており、適正な流通口銭を維持するべく丁寧に地道にユーザーへ説明していかなければならない。</p> <p>(溶協品) 9月の店売り販売は8月の悪さを引きずった。9月3連休後、一時良くなったが、後半落ち込んだ。10月に入り多少良くなってきたが、台風の影響がどのように出るか懸念している。建築土木向けの鋼管杭は堅調だが、昨年と比較すると落ち込んでおり、一昨年並の水準と言える。住宅杭は割高感からコンクリートPC杭に変更されている。建築案件は中小物件を中心に端境期となっており徐々に少なくなっている。オリンピック後に案件が控えているということだが、これは超大型物件であり中小物件が出てくるかは不透明。大型の鉄骨が出来上がっているため、内装に使用する建材製品も順調である。太陽光関連の仕事も順調。溶協メーカーは高炉メーカーの値上げ姿勢に連動しているため値上げ姿勢を変えていないが、市中では安値も散見され、逆の動きも見受けられる。</p>
<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>(大阪) 米中貿易摩擦の影響が出ている。分野によって製造業関係が悪くなってきている。スクラップ価格が軟化している中、市況をなんとか維持している。昨年12月がピークだったのではないかと。</p> <p>(棒鋼) 異形棒鋼は様子見状態で、新規物件が少なく契約残の消化のみである。本来の秋需には程遠く、昨年に比べると市中の落ち込みは否めない。9月は稼働日数の関係で前月より伸びたが10月11月の荷動きは期待できない。スクラップが軟化しているがなんとか市況をなんとか維持している。構造用鋼は建機、自動車はまあまあだが、足元の需要は振るわず。土木の中小物件は散見されるが昨年ほどではない。店売りは10月に入っても荷動きが悪い。</p> <p>(H形鋼・一般形鋼) 9月は稼働日数の関係で前月比増加したが、10月11月、昨年よりは落ち込み予想で期待できない。市況もジリジリ下がっている状況。先行きの需要も不透明で製造業関係の業績も悪く、設備投資も減少傾向となっている。</p> <p>(薄板) 自動車はまあまあだが、建産機の動向が悪くなっており、全体感を悪くしている。ここへきて販売単価が下落している状況。製造業全体で低調な分野が増えている。輸入材もあり、市況も弱含みとなっている。</p> <p>(厚板) 昨年より低調な販売。シャーリング加工も低調。相変わらず低調</p>

	<p>で、製造業にも陰りがみえている。足元悪い状況。</p> <p>(パイプ) 製造業、海外向け、建産機減少。店売り関係は昨年比減少している。土木関係は中層階住宅向けの鋼管杭に陰りがみえている。溶協品、高炉品も値上げで需要が少なく価格転嫁が厳しい状況。今後も厳しい状況。海外市況の落ち込みに引っ張られ悪くなっている。製造業関係が悪くなり、昨年12月がピークだったのではないかと</p>
<p>新潟地区 (澁井常任理事)</p>	<p>前回7月に新潟地区の状況はあまり良くないと報告したが、今回は更に悪くなっている。新潟地区で実施のアンケートによると収益状況について5月赤字企業23%、6月20%、7月30%、8月75%、9月40%。ファブの状況はSグレードの仕事は新規で入ってきている、Hグレードは多少空きが出てきている、Mグレードは次何をしようかという処まで仕事が減少している。新潟地区は行わなければならない事業が多いが財政事情が厳しく実施できないため、これから土木関連の案件も厳しくなるだろう。ボルト不足は解消されつつあり、今後の建築物については支障ないのではないかと。働き方改革の影響で生産性が相当落ちており、その分かかったコストをユーザーに価格転嫁できないという声が出ている。</p>
<p>福岡地区 (一日役員・竹田理事)</p>	<p>スクラップ価格下落傾向の中、電炉メーカーは市況を維持し高収益を出している。決算対策のため表面処理鋼板をかなりの安値で販売している企業があり、大変迷惑している。短納期の仕事が多くなっている。働き方改革で残業はさせられないため人手不足などの問題で苦労している。面接に来ても給料よりも休日を優先する人が増えている。8月は休みが多く、昨年より売上が落ちた。GDP(国内総生産)が急上昇している国があるにも関わらず、日本のGDPはここ数年それほど動いていないのが心配である。現場のことがわからない人が多いのではないかと。行政の働き方改革で仕事を短時間で効率的にということもわかるが、これではGDPは上昇しない。鉄鋼流通業界も若い人をどんどん新規採用して夢のある業界にしてほしい。後継者問題、M&Aの問題なども発生している。いろんな問題をクリアするために知恵を貸してほしい。</p>